



## おとなのコミュニケーション・子どものコミュニケーション

お茶の水女子大学教授・附属中学校長 三輪建二

わたしは成人教育論・生涯学習論を専門にしており、社会人のさまざまな学習活動に講師やファシリテーター（学習支援者）の役割でかかわってきている。公民館での講座などの成人教育や生涯学習の現場では、ふだん教えている大学生・大学院生よりも高い学習意欲をもった社会人が熱心に学んでいるのを目の当たりにすることが多く、社会人などのおとなの学習のあり方にこそ、子どもの学習や教育にとってヒントになるものがあるのではないかという思いをもっている。しかし今回は、紙幅の関係もあり、私が何らかの形でかかわっている成人教育講座に見られる、おとなのコミュニケーションの気になる点、問題点の方を取り上げてみたい。子どものコミュニケーション能力の衰えを批判する前に、私たちがおとな自身のコミュニケーションにも、かなりの問題があることを指摘してみたいからである。

その上で次に、おとなにも子どもにとっても十分身につけているとは言えず、同時に、これまで必要であると強調されてこなかったコミュニケーション能力である「口ごもりのコミュニケーション」能力について、わたしなりの見解をまとめてみたい。

### おとなのコミュニケーションの事例から

退職前後の人びとを主な参加者とする講座でのある一コマから。

ここで学ぶ人びとは、学んだ成果を個人の目的ではなく、ボランティア

活動や学校訪問などの地域活動に活かすことをめざしている。講師であるわたしは参加者に、何度か次のように述べていた。「この講座では話し合い学習の時間をかなり取り入れていきます。グループでの話し合いは、地域活動の出発点になると思ってください。他人の話を丁寧に「聴くこと」と、できるだけ多くの人の話が聴けるように短めに「話すこと」に努力してください。聴くことと話すことを意識したコミュニケーションは意外と難しいものですが、これができるようにならないと、地域活動はなかなかうまくいかないかもしれません。数回にわたり話し合いの時間を設け、その都度聴くことと話すことについてグループ活動のふり返しを行っている。会話の中で浮かぬ顔をしている人がいると理由を尋ねることにしており、よく、「話すのは得意だけど、相手の話を聴くというのはいかぬかうまくできないのですね」という答えが返ってくることもある。

ところで、わたしが何よりびっくりしたのは、時々ではあるが、コミュニケーションが得意でないという自覚すらもたない方々がいらっしやるということだった。「男性の発言が長めのようなので、なるべく全員の方が話せるように」というアドバイスをしても、「そうですね」と頷きながら、ひたすら一方的に話しつつつける男性がいる。地域活動の具体的な体験を話している女性の発言を途中でさえきり、「要するに……ということだね」といってすぐにまとめ、また体験談は議論に値しないと顔

をしめめる男性もおられる。仕事場で培った、合理的で理論的だとされるディスカッションを良しとし、制限時間内でひとつの結論を出すという営みを、職場ではないはずの成人教育・生涯学習の場にそのまま持ち込んでいるのだな、と思ったものである。

わたしは女性たちの発言の少なさが気になり、「女性の発言の時間が短めですね、地域での活動は多くの女性が担当されていますので、何かありませんでしょうか」という司会進行を何度か試みた。しかし問題は、私の意図を汲み取ろうとしない男性側だけにあるのではないことにも気づくようになった。男性の、「見ると合理的な議論の仕方に圧倒されてしまうのか、「話し上手でないの」としり込みし、まとめを報告する段になって、「慣れていらいらっしゃるから」と男性陣に発表を頼んでしまう女性たちが、とくに年配の方々に多かったのである。

「二〇〇七年問題」が喧伝されている。団塊の世代の年長者が会社をいっせいに退職するのが二〇〇七年ということから名づけられている。多くは、知識・技能をもった団塊の世代が退職することによって生じる会社側の損害に焦点をあてた議論になっているが、成人教育にかかわるわたしは、一見合理的なコミュニケーション能力をもつ男性サラリーマンが地域デビューすることで、これまで、女性たちが主体となって築きあげてきた地域のコミュニケーション・ネットワークが徐々に、あるいは急激に崩れていくという問題として、しかも、女性たち自身が「男性の方どうぞ」という形で、この潮流に掉をさしかねないという問題としてとらえている。

### 3つのコミュニケーション・パターン

ここでの事例は男女間でのコミュニケーションの「ズレ」にやや傾いたものであった。この事例を、男女間のジェンダーに関するコミュニケーション

事例として、さらに議論ができるかもしれない。ただしわたしはこの事例を、別の観点から取り上げようとしたつもりである。つまり、子どもたちのコミュニケーション能力が落ちているという議論がさかんになされているが、「おとなだって、コミュニケーションが得意ではないのでは」ということを言いたいためにこの事例を取り上げたのである。子どものコミュニケーション能力の乏しさを嘆く前に、わたしたちおとな自身、コミュニケーション能力をどれだけ豊かに持っているかについての自問自答が必要なのではないだろうか。

それでは、どのようなコミュニケーション能力が必要なのだろうか。私たちおとなが、自らのコミュニケーション能力の回復に努力しつつ、次世代の子どもたちに伝えておきたいコミュニケーション能力について、ここでは次の三つのコミュニケーション・パターンに分けて考えてみたいと思う。

第一のパターンは、お互いに自我をもった個人が向き合い、論理と論理をぶつけ合いながら進めていく「理性的なコミュニケーション」である。上の事例で言えば、男性サラリーマンのコミュニケーション能力にやや近いものである。しかし日本人男性は、西洋的な自我を身につけているわけではないので、理性的なコミュニケーションが得意であるとは言い切れないだろう（参照、中島、二〇〇〇）。第二のパターンは、論理的というよりは、日常の体験や経験などの具体例を積極的にとりあげて話し合う「経験主義的なコミュニケーション」である。上記の事例では、女性のコミュニケーション能力に近いものであろう。

理性的なコミュニケーションは、現在、ディベートなどの学習方法として、学校教育の中に取り入れられつつある。ただし、ディベートでは個人の自我が強調されることは少ないし、またそれだけがよいコミュニケーションだとなると、具体的な現実を知らない空理空論でもよいこと

になりかねないので、体験を尊重した経験主義的なコミュニケーションも大事になる。「総合的な学習の時間」において重視されるコミュニケーション能力は二番目のコミュニケーション・パターンであると見えよう。しかしながら、わたしはさらに、第三のコミュニケーション・パターンが必要ではないかと考えている。おとなは、第一、第二のコミュニケーション・パターンのどちらかを一面的に身につけていることに気づき、両者のバランスを取るよう努力する必要があるが、さらに、第三のコミュニケーション・パターンがもつ意味を理解し、自らの話し合いに取り入れると同時に、子どもたちにもその必要性を伝えていく責任があるのではないかと考える。

口ごもりのコミュニケーション？

さて、第三のコミュニケーション・パターンをわたしは密かに、「口ごもりのコミュニケーション」と名づけている。理性的なコミュニケーションは、自分の考えをしっかりと持ち、それに論理と言葉をあたえ、論理をもった言葉を相手にぶつけ、その相手からも論理的な言葉を返されることで成り立つものである。また、経験主義的なコミュニケーションは、理性よりは自らの体験や経験を土台にするが、それに意味と言葉を与えて形にし、相手に伝え、相手からの返答をもらうことを重視する点では、理性的なコミュニケーションと重なるところもある。これに対し、「口ごもりのコミュニケーション」というのは、相手に向かって恥ずかしさのあまりに口ごもりながら、言葉にならない言葉をとりあえず発することによって、また相手からも口ごもった返事をもらうことによって、徐々に輪郭が明確になるようなコミュニケーションのことである。内田樹氏と名越康文氏の対談集『14歳の子を持つ親たちへ』(二〇〇五)から、この第三のコミュニケーションについて語っている箇所を抜き出してみ

たい。

内田 ……小学校の低学年の子が、自分の思いとか意見とかをはっきりした言葉で言えるはずがない。言葉に詰まってしまうとか、あるいは複雑な感情だったら言葉が追いつかないから黙ってしまうというのが小学生中学生にとっての「当たり前」なわけであって。ほんとうに感受性が優れていて、言葉を大切に扱う子は、口ごもって「シャイ」になるはずだって佐藤先生(佐藤学・・・引用者注)は言うんです。

(中略)

名越 ……コミュニケーションとは、自我をはっきり持って、それで自分の意見をはっきりと発信できることだってことになってるんですよ。

内田 むしろ逆ですね。何をいっているのかははっきりわからないことを受信する能力のことでしょう、コミュニケーション能力って。聴いたことのない語を受信することによって「あっ、こういう言葉が存在するのか」というふうに驚くことを通じて語彙だって獲得されるものなんですから。

(中略)

内田 ……むしろ言葉に詰まる子に対して、いくら言葉に詰まっても構わない、先生は待っていてあげるから大丈夫だよ、と告げるこの方がずっと優先順位の高い教育課題じゃないですか。人前で語ると、どうしても恥ずかしくて言葉が詰まっちゃうという子どもに、「シャイネス」というのは美德なんだよ」って言ってあげること。あるいは、中途半端な言い方をしてしまって、「こんな言葉づかいじゃ、僕の気持ち伝えられない」と、すぐに前言撤回しちゃうので、話がグルグル回るばかりで、さっぱり結論に至らないというような、そういう子ども

もに對しては、そういう時こそコミュニケーション能力が飛躍的に成長する決定的なプロセスを通過しつつあるんだということを、忍耐強く見て取ってあげないといけないと思うんです。

分かったことに基づいた、理論と理論とを対峙させるコミュニケーションではなく、とりあえず進めてみてから初めて形が見えてくるような、あるいはコミュニケーションの結果として何が言いたいのか輪郭がようやく見えてくるようなコミュニケーション。そして深まれば深まるほど、いったんははっきりとしたことがさらに分からなくなることもありうるようなコミュニケーション(参照、内田・春日、二〇〇五)。このような螺旋的ともいえる会話プロセスをどこまで大切にできるのだろうか。わたしたちは自分自身のコミュニケーションについて、また子どもたちに伝えるべきコミュニケーション・パターンについて、じっくりと考えなおす時期に来ているようである。

おわりに

おとなたちの口ごもりのコミュニケーションは、どのようにしたら再構成できるだろうか。また、子どもの中に、口ごもりのコミュニケーションをどうしたら育てられるのだろうか。わたしは、成人教育の体験から、おとなにとっても、また子どもにとっても、言葉にならない言葉から出発する口ごもりのコミュニケーションを深めていきたいと思っている。

現在、ドナルド・ショーンの『省察的実践者』(The Reflective Practitioner, 1983)という書物の全訳を進行中である(部分訳、ショーン／佐藤・秋山、二〇〇一)。原因と結果の関係を重く見る「技術的合理性」に絶対的な価値をおく学問やコミュニケーションにかわって、「直観」や「技(わざ)」に基づいて行っている実践を大事にし、それを意

識的に省察していくこと(ふり返り)を、あたらしい学問やコミュニケーションのあり方として重視しようとするショーンの考え方を、少しでも明らかにしてみたいと思ったからである。また口ごもりのコミュニケーションとその省察(ふり返り)を大切にすることを、子どもの学習だけでなくおとなの学習においても積極的に取り入れていきたいと考えている(参照、クラントン／入江・三輪、二〇〇四)。とりあえずは、どちらかといえば女性のほうが慣れ親しんでいる経験主義的なコミュニケーションを理性的なコミュニケーションよりも大事にし、それを無理やり整理したりせずに、辛抱強く深めあっていく実践から始めたいと考えている。

〈参考文献〉

- 内田樹・名越康文「14歳の子を持つ親たちへ」新潮社、二〇〇五
- 内田樹・春日武彦「健全な肉体に狂気は宿る」角川書店、二〇〇五
- P・クラントン／入江直子・三輪健二監訳「おとなの学びを創る」鳳書房、二〇〇四
- D・ショーン／佐藤学・秋山喜代美訳「専門家の知恵」ゆみる出版、二〇〇一
- 中島義道「〈対話〉のない社会」PHP、一九九七

1  
児童教育 16  
2006.2  
お茶の水女子大学附属小学校

# 資料 1

女性情報ポータル(総合窓口)このサイトについて [新着情報](#) [サイトマップ](#)

ウィネット  
**Winet**

[トップ](#)>

“Winet”(Women's information network)は、女性の現状と課題を伝え、女性の地位向上と男女共同参画社会形成を目指した情報の総合窓口です。  
政策担当者、研究者、学習者、団体・グループの方々、メディア関係者等の皆様に役立つ、さまざまなデータベースを提供するとともに、インターネット上の資源へナビゲートします。

国立

EM

横断検索

女性情報ナビゲーション

女性情報

義語使用

◆ [女性情報CASS](#)

データベース

◆ [文献情報データベース](#)

◆ [文献複写Web申込](#)

◆ [女性関連施設データベース](#)

◆ [女性学・ジェンダー論関連科目データベース](#)

→ ◆ [女性と男性に関する統計データベース](#)

◆ [女性情報レファレンス事例集](#)

◆ [男女共同参画人材情報データベース](#)

◆ [女性のキャリア形成支援サイト](#)

◆ [女性情報シソーラス](#)

◆ [過去のデータベース](#)

◆ [Contemporary Women's Issues \(館内サービス\)](#)

■ [最新情報](#)  
- 最近の新聞記事  
- 国の動き  
- 海外の動き  
- 会議情報

■ [歴史・民俗・宗教](#)  
女性史  
民俗／宗教

■ [政治・政策・法律](#)  
男女共同参画  
女性関連施設  
裁判／判例  
条約

■ [経済・経営](#)  
起業／経営  
農林水産業  
税制  
開発

■ [科学・技術](#)

■ [調べ物お役立ちツール](#)  
- 総合／検索エンジン  
- 人物情報  
- 用語集／辞典／事典  
- 統計／年表  
- 団体／NPO情報／助成金

■ [教育・研究](#)  
女性教育／キャリア形成  
学校教育  
学術研究

■ [社会問題・社会活動](#)  
少子化／次世代育成  
高齢社会  
地域づくり  
NGO／NPO  
人身売買

■ [世帯・家族](#)  
家族／ひとり親  
育児／子育て支援  
結婚／離婚／シングル  
児童虐待  
ドメスティック・バイオレンス

■ [ことば・情報・メディア](#)  
女性情報ライブラリー  
ICT／メディア  
日本女性に関する英語  
発信サイト

■ [思想・理論](#)  
フェミニズム  
女性学

■ [性・心・体](#)  
医療／保健  
セクシュアリティ  
妊娠／出産  
不妊  
性暴力  
相談／ケア

■ [労働・社会](#)  
社会保障  
女性労働  
セクハラ  
保育  
介護

■ [くらし・環境](#)  
生活  
環境

■ [文化・芸術](#)  
フェミニズム  
スポーツ

ウィネット  
**Winet**


[トップ](#) >

“Winet”(Women's information network)は、女性の現状と課題を伝え、女性の地位向上と男女共同参画社会形成を目指した情報の総合窓口です。

政策担当者、研究者、学習者、団体・グループの方々、メディア関係者等の皆様に役立つ、さまざまなデータベースを提供するとともに、インターネット上の資源へナビゲートします。

[国語](#)

[Eメール](#)

 [女性情報ナビゲーション](#)

女性情報シソーラスの同義語使用

[トップへ戻る](#) > [教育・研究](#) > [女性教育／キャリア形成](#) ([文献情報データベースで検索](#))

[報告書](#)

[日本女性学習財団](#)

男女共同参画社会の形成に資する女性の生涯学習及び次世代育成の振興に寄与することを目的としている。

[国際女性教育振興会](#)

女性の国際的視野をひろめ、その教育の振興に寄与することを目的とした団体。

[女性のキャリア形成支援プラン](#) [文部科学省]

[女性の再チャレンジ支援リーフレット](#) [放送大学]

子育てが一段落したら何かしたいと考えている方などにお勧めするライフプランニングに役立つとめたリーフレット。

[女性のキャリア形成支援サイト](#) [国立女性教育会館]

[キャリア支援のページ](#) [日本女性学習財団]

J-CAREER WASEDA PROJECT<早稲田大学・女性のキャリア形成支援プロジェクト関係機関>

[「多様なキャリアが社会を変える」第1次報告](#) [文部科学省]

2003年3月に「女性の多様なキャリアを支援するための懇談会」が出した女性研究者への支援に書。

[「多様なキャリアが社会を変える」第2次報告](#) [文部科学省]

2003年10月、第1次報告を踏まえて、女性のキャリアと生涯学習の関わりが検討された報告書。

[▲ ページトップへ](#)

# 女性と男性に関する統計データベース

Gender Statistics Database

国立女性教育会館 NWEC

女性情報ポータル

「女性と男性に関する統計データベース」は、日本の女性及び男性の状況を把握する上で重要な統計をあらゆる分野にわたってとりあげ、データベース化したものです。

"Gender statistics database by NWEC" contains important statistical data collected from all fields of Japanese women and men. It will be useful for you in grasping their situation.

[>> データベースについて](#)

[>> 利用方法](#)

[>> リンク](#)

About this database

Help

Links

又エックミニ統計集 日本の女性と男性2002-2003年

NWEC Summary Statistics Women and Men in Japan 2002-2003

検索 Search

クリア Clear

## ▼ キーワード keywords

(\*Japanese only)

同義語を使う

search by synonyms \*

シソーラス展開

search by thesaurus \*

## ▼ 分野 category

- 人口  
Population
- 世帯・家族  
Household and family
- 労働  
Labour
- 生活時間と無償労働及びボランティア、余暇・スポーツ  
Time use, unpaid work, volunteer, leisure and sports
- 家計・資産  
Household budget and property
- 教育・コミュニケーション  
Learning and communication
- 社会保障・福祉  
Social security and welfare
- 健康・保健  
Health
- 安全・犯罪  
Security and crime
- 意思決定  
Decision-making
- 意識調査  
Consciousness survey

## ▼ 省庁 ministry and agency

- 人事院  
National Personnel Authority
- 内閣府(総理府・経済企画庁)  
Cabinet Office
- 警察庁  
National Police Agency
- 防衛庁  
Defense Agency
- 総務省(総務庁・自治省)  
Ministry of Internal Affairs and Communications
- 法務省  
Ministry of Justice
- 外務省  
Ministry of Foreign Affairs
- 文部科学省(文部省・科学技術庁)  
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
- 厚生労働省(厚生省・労働省)  
Ministry of Health, Labour and Welfare
- 社会保険庁  
Social Insurance Agency
- 農林水産省  
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
- 国土交通省(建設省)  
Ministry of Land, Infrastructure and Transport
- 最高裁判所  
Supreme Court of Japan

平成15年度 あざれあゼミナール  
「男女共同参画ファシリテーター養成コース」実施要項

1. 目的 男女共同参画社会の実現のため、これまでに男女共同参画について学んだ経験がある人を対象に、講座やワークショップなどで学習支援者として活躍するために必要な知識や技法を身につけてもらい、地域において活躍できる人材を育成する。
2. 期間 平成15年6月10日(火)～10月28日(火)  
10:00～16:00(5時間)
3. 会場 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」5階501会議室(原則)
4. 対象 男女共同参画について学んだ経験がある者で県内在住の者
5. 定員 20名
6. 日程・内容  
講師 下記一覧のとおり
7. 募集期間 平成15年4月1日(火)～5月7日(水)
8. 広報 県民だより4月号, ポスター, パンフレット, エポカ, ラジオ, HP等
9. 応募方法 はがき・電話・FAX・E-mailで受講希望を受付ける。
10. 講座生の決定 原則抽選で講座生を決定するものとし、決定の上は講座生宛通知する。ただし、応募者多数の場合は選考とする。(重複して申込みをしている受講生などの配慮のため)
11. 終了認定 講座生がすべての講義に出席した場合、修了証書を授与する。
12. 託児 原則1歳半以上小学校就学前の幼児について託児申込書の提出に基づき実施する。
13. その他 県民カレッジと連携する。  
計20時間(5時間×4回 8月20日と9月17日除く)  
すべての講義に出席した者は、ファシリテーターとして登録し、市町村等に公開する。

あざれあゼミナールファシリテーター養成コース

日程・内容・講師

日程・会場	講座内容・講師
6月10日(火) 501	大人の学びを支援するために お茶の水女子大学文教育学部 教授 三輪 建二
7月8日(火) 501	講座の企画 "
7月15日(火) 501	講座の運営 "
8月20日(火) 501	講座を実践するために 元県議会議員 松岡 紋子
10月28日(火) 501	講座の実施 内藤法子・嘉彦 夫妻/大塚邦子・賀弘 夫妻
	講座の振り返り お茶の水女子大学文教育学部 教授 三輪 建二



①

講座生企画講座進捗状況1 (8/20まで)

- 7月15日(火) 第3回講座
  - 講座企画が決定した
  - 役割分担と連絡網を作成した
  - 8月20日(水)に講座生の学習会を実施することを決定し、学習会が準備をする
- 8月20日(水) までの課題
  - 各組ごとに講座企画書の改善案を検討する
- 7月28日(月)
  - アンケート作成班(6組)打ち合わせ(あざれあ)
- 8月4日(月)
  - 勉強会班(1班)打ち合わせ(あざれあ)
  - 講座生に案内
- 8月5日(火)
  - 高産生学習会の講師依頼文書送付、11日(月)送付
- 8月7日(木)
  - チラシ作成班(3班)打ち合わせ(あざれあ)
- 8月20日(水)
  - 10時~12時 全体打ち合わせ(504会議室、三輪先生)
    - \* 10/28実施の企画をかためる
    - 各組がまとめた原稿を原の枚数分コピーし、検討する
    - ・タイトル ・お祝い ・ゲストスピーカー
    - ・参加者 ・定員 ・2時間半の進め方 ・その他
    - \* 9月末 リーダーのみの最終打ち合わせだけでも実施日を決める
    - \* あざれあと連絡を取りながら今後は進めてもらう
    - ゲストスピーカー、依頼文書、広報、など
  - 13時~15時 学習会
  - 松岡 敏子さん(元副議長)

※ 8/20以降、各組ごとに実施に向けて、あざれあと連絡をとりながら動き出す

②

講座生企画講座進捗状況2 (9/4まで)

- 9/1(月)【広報班】
  - エポカの原稿をfaxにて受領した
  - 交流会議のHPにも掲載してもらうよう依頼する予定
- 8/3(火)【チラシ班】
  - 打ち合わせ 10時~
- 【当日の役割班】
  - 打ち合わせ 14時~
  - \* 当日の役割を5つに分類し(事前準備、講師接待、受付、講座の進行、アンケート)、現在の6つの班で分担する
  - \* 当日の日程に従ったフローチャートについて検討した
- 9/3(水)【講師交渉班】
  - 打ち合わせ 15時~
  - \* 講師候補を決定し、交渉に入る
  - 候補 内藤のり子さん夫妻(裾野市)
  - その他1組
  - \* 講師料 10,000円×4名(計40,000円)
  - \* 今後の予定
    - ・ 講師交渉
    - ・ 内容の打ち合わせ
- 9/4(木)【チラシ班】
  - チラシの原稿faxにて受領、供覧し、返信した
  - \* 今後の予定
    - ・ 9/5に最終の打ち合わせを行い案として決定したものを、各講座生に郵送し、17日の打ち合わせにて決定する
- 【アンケート班】
  - アンケート案の作成

今後の予定

- 9/10までに、各組の進捗状況をあざれあ事務局に提出してもらう
- 9/17に、全体の打ち合わせを行う

③

講座生企画講座進捗状況3 (10/8まで)

- 8/11(月)【学習会班】
  - 講師依頼文書送付(松岡宛)
- 8/20(水)【学習会班】
  - 学習会実施
- 9/1(月)【広報班】
  - エポカの原稿をfaxにて受領した
  - 交流会議のHPにも掲載してもらうよう依頼する予定
- 9/2(火)【チラシ班】
  - 打ち合わせ 10時~
  - 【当日の役割班】
  - 打ち合わせ 14時~
  - \* 当日の役割を5つに分類し(事前準備、講師接待、受付、講座の進行、アンケート)、現在の6つの班で分担する
  - \* 当日の日程に従ったフローチャートについて検討した
- 9/3(水)【講師交渉班】
  - 打ち合わせ 15時~
  - \* 講師候補を決定し、交渉に入る
  - 候補 内藤のり子さん夫妻(裾野市)
  - その他1組
  - \* 講師料 10,000円×4名(計40,000円)
  - \* 今後の予定
    - ・ 講師交渉
    - ・ 内容の打ち合わせ
- 9/4(木)【チラシ班】
  - チラシの原稿faxにて受領、供覧し、返信した
  - \* 今後の予定
    - ・ 9/5に最終の打ち合わせを行い案として決定したものを、各講座生に郵送し、17日の打ち合わせにて決定する
  - 【アンケート班】
    - アンケート案の作成
- 9/10(水)【学習会班】
  - 講師札状送付

④

- 9/17(水)【打ち合わせ】
  - ・ 当日の内容について検討
  - ・ ちらしについて
  - ・ 当日の役割分担について
  - ・ アンケートについて
- 9/24(水) 午前【チラシ班】
  - チラシ1,000部印刷し、広報班へ引き送る
 午後【アンケート班】
  - 決裁を受けた依頼文書と併せて、チラシをまとめた
- 9/25(木)【あざれあ】
  - 広報班から引き継いだチラシの納入(県庁)
  - 市町村男女共同参画担当課
  - 行政センター
  - 市町村公民館
- 10/2(木)【講師交渉班】
  - 講師依頼文書(内藤夫妻、大塚夫妻宛)
- 10/7(火)【広報班】
  - 広報活動
    - ・ 県庁内、(1)男女共同参画室 (2)記者クラブ(朝日、産経、静岡、中日、東京、中部経済、日本経済、日刊工業、毎日、読売、共同通信、時事通信、NHK、SUT、SATV、SDP)
    - ・ 中日新聞、中日ショッパー訪問、依頼
    - ・ FM静岡訪問、依頼
    - ・ 静岡新聞訪問、依頼
    - 後援というかたちで、協力いただけることになり、講座について事前の掲載と当日の取材、掲載をしていただくことに。
    - ・ その他、異性連絡協議会、NPOセンターへ。
- 10/12 沼津朝日新聞日刊掲載
- 10/19 静岡新聞夕刊掲載
- 10/20 最終チェック
  - 501会議室を使って、会場設営と本番に向けて最終チェック
  - 本番へ向けて、情報交換など連絡をしながら調整